

放課後等デイサービス事業所における自己評価表

公表：令和 8 年 2 月

放課後等デイサービス 笑光

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室スペースとの関係で適切である。	○		活動スペースは広いスペースの確保と安全性を考慮し、可能な限り物を置かないようにしている	
	②	職員の配置数は適切である。	○			
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	○		車いす可能なトイレスペース、手すりの設置、可動式スロープの設置を行っている。	
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している。	○		毎週火曜日に職員カンファレンスを行い、その中で利用児のことや業務のことに関して課題を提案し、解決へ向けての目標設定、その後振り返り評価を行っている。	
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	○			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	○		ホームページの掲載と保護者への配布を行っている。	
	⑦	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	○		8月を除いて毎月事業所内で勉強会を行っている。また、療育に関連する外部の研修にも参加している。柔道療育に関しては海外より招待して講習を行っている。	次回、7月に招待の予定
適切な支援の提供	⑧	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	○		日常の会話や担当者会議、モニタリングなどにより情報収集を行い、個別支援計画書を作成している。内容に意義がある場合は申し出てもらうようにしている。	
	⑨	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	○		課題の整理票を用いて職員間で情報共有している。	
	⑩	活動プログラムの立案をチームで行っている。	○		職員カンファレンスの時間に意見を出し合っ作成している。	
	⑪	活動プログラムが固定化しないように工夫している。	○		内容がマンネリ化しないように研修に参加するなどして新たな情報を得て活動に取り入れている。	
	⑫	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援している。	○		平日は40分間、一斉に柔道療育を行っている。そのため、長期休業の時に学習時間を設けたり野外活動を積極的に取り入れ、学習面や生活面、社会面等を確認している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
	⑬ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	○		集団活動では柔道療育を行っており、それ以外の時間帯では個々に応じた課題にとり組むように計画を作成している。	
	⑭ 支援終了開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している。	○			
	⑮ 日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている。	○		日誌や個別の記録だけではなく、活動の様子を動画や写真に収めて支援の検証・改善に繋げている。	
	⑯ 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見通しの必要性を判断している。	○		日頃から子どもたちと接することで子供たちの成長や課題を確認するようにしている。	
	⑰ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	○			
	⑱ 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	○		代表か管理責任者、もしくは2人で参加している。	
関係機関や保護者との連携	⑲ 学校との情報共有（年間計画、行事予定などの交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	○			
	⑳ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。		○	主な情報は相談員や保護者から提供してもらっている。利用開始後必要に応じて保育所や幼稚園との情報の共有を行っている。	
	㉑ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している。			相談員の方を通して学校への情報提供を行っている。	
	㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	○			
	㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	○		・3 事業所との交流会を行った。また、鹿屋体育大学の学生の実習、ボランティア、アルバイトの受け入れ、海外の柔道家との交流等をおこなった。	
	㉔ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している。				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
	②⑤ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	○		送迎時や LINE などにて活動の様子はお伝えしている。また、面談月間を設けるなどして保護者と話のできる機会を作るようにしている。	
	②⑥ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	○		職員間で個々の保護者にどのようなアプローチをしていくか話し合いながら実施している。	研修への参加や職員全体での勉強会を積極的に行う。
	②⑦ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	○		契約時に行っている。	
	②⑧ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	○		面談はいつでも希望可能なことを保護者にお伝えしている。	
	②⑨ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	○		2月21日に第4回成果発表会を行う。その際に保護者間の交流もできたらと考えている。	
	③⑩ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	○		マニュアルに基づいて対応している。	
	③⑪ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	○		月間予定表に「笑光のつぶやき」として情報発信している。	今後は SNS での発信も積極的に行っていく予定です。
保護者への説明責任	③⑫ 個人情報に十分注意している。	○		職員の入職時に守秘義務についての説明と誓約書の作成を行っている。	
	③⑬ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	○			
	③⑭ 事業者の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。		○	ご家族の意向を考慮して積極的には招待していない。	
非常時などの対応	③⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している。	○		契約時、発表会の際に説明を行っているが、記憶に残っていないご家族もいらっしゃる。	現在周知の方法を模索中。例えば SNS などの発信。
	③⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	○		施設内だけでなく、消防士による訓練も行っている。	消防士による訓練が1日しかできていない状況である。体験できなかった子どもたちには伝達講習を計画していく。
	③⑰ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしている。	○		マニュアルに従い1回/年行っている。また、それ以外にも外部の研修会に参加している。また、チェックリストを用いて職員の意識確認を行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
③⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、理解を得たうえで放課後等デイサービス計画に記載している。			身体拘束の規定を作成し、定期的に勉強会を行っている。そのうえで、いかなる場合でも身体拘束は行わずに対応するようにしている。	
③⑨	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている。	○		契約時に確認している。	
④⑩	ヒアリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○		事例が発生した時はその都度、職員間で意見交換を行うようにしている。	

令和8年2月実施